



阪神高速 グループビジョン 205X

2026年4月



イントロダクション



目次

P1 イン트로ダクション

- P2 目次
- P3 策定の目的
- P4 グループビジョンの位置付け
- P5 実現の時期と道筋の設定

P6 グループビジョン策定の前提条件

- P7 社会変化のトレンド
- P8 事業環境変化の想定
- P9 6つの未来ストーリー
- P10 阪神高速グループの意志ある未来

P11 グループビジョンの概要

- P12 グループビジョンのフレーム
- P13 グループビジョンの実現イメージ

P14 グループビジョンの内容

- P15 Mission Field ～変わらぬ使命をサステナブルに遂行～
- P17 Innovation Field ～新たな価値を創出～
- P23 Human Capital Field ～人の成長と技術力・ナレッジの進化～

P25 (参考)阪神高速グループのサステナビリティ



策定の目的

- 阪神高速グループは、2016年4月に「阪神高速グループビジョン2030 ～未来(あす)への道、私たちの挑戦～」を策定し、2030年にめざす姿として6つの「ありたい姿」を掲げて、その実現に向けて取り組むことを通じ、グループ理念「先進の道路サービスへ」の具現化を図ってきました
グループビジョン2030の策定からこれまでの間には、ネットワークの整備、高速道路リニューアルプロジェクトの着実な推進、地震や風水害への対応、技術力やノウハウを活かした新たな事業展開、経営の効率化などに加えて、2025大阪・関西万博の成功に寄与する交通円滑化への貢献などにも取り組んできました
- 一方で、グループビジョン2030の策定以降、社会情勢や経営環境は大きく変化してきました。特に近年は、人口減少・少子高齢化に伴う担い手不足、自然災害の激甚化、インフラの老朽化などといった困難な課題が生じています。また、これらの課題に対応しながら、地球環境の保全、デジタル革命の加速、ライフスタイルや価値観の多様化などの社会の要請にも応えていく必要があります
- 事業を通じてお客さまの満足を実現し、関西のくらしや経済の発展に持続的に貢献していくためには、目下の状況変化などに対応するだけでなく、顕在化が予想されるリスクや社会課題、社会要請への対応や技術革新に伴う社会・生活の変化から未来社会をイメージし、その中で阪神高速グループが提供する価値を明確化して、社会やお客さまのご理解を賜りながら、実現に向けて取り組むことが必要です
このため、未来において事業・経営を担う世代の社員の意見を核として、役員と幅広い世代の社員が議論に参加し、阪神高速グループの外部の有識者の意見も取り入れて、「阪神高速グループビジョン205X」を新たに策定しました
- 新たなグループビジョンは阪神高速グループの「意志ある未来」を示すものです。その実現に向けて、グループの総力を挙げて取り組み、グループ理念「先進の道路サービスへ」の具現化を図ります



グループビジョンの位置付け

先進の道路サービスへ

阪神高速は、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を実現し、関西のくらしや経済の発展に貢献します。

- グループビジョンは、**阪神高速グループ理念「先進の道路サービスへ」**の具現化に向けた方向付けとして、グループの「意志ある未来」を示すものです
- 新たなグループビジョンを踏まえて、分野別戦略、中期経営計画などの具体的な戦略やプランを策定・更新し、これらに基づく取組みを推進することにより、「意志ある未来」の実現を図ります
- 阪神高速グループは、社会を構成する一員として、「**サステナビリティ**」を共通の価値観と認識し、**グループビジョン**に示す「**意志ある未来**」の実現による**グループ理念の具現化**を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、持続的な企業価値の向上を目指します

企業と社会の相乗発展
サステナビリティ

持続可能な
社会の実現

持続的な
企業価値の向上

グループ理念

グループビジョン

分野別戦略

中期経営計画

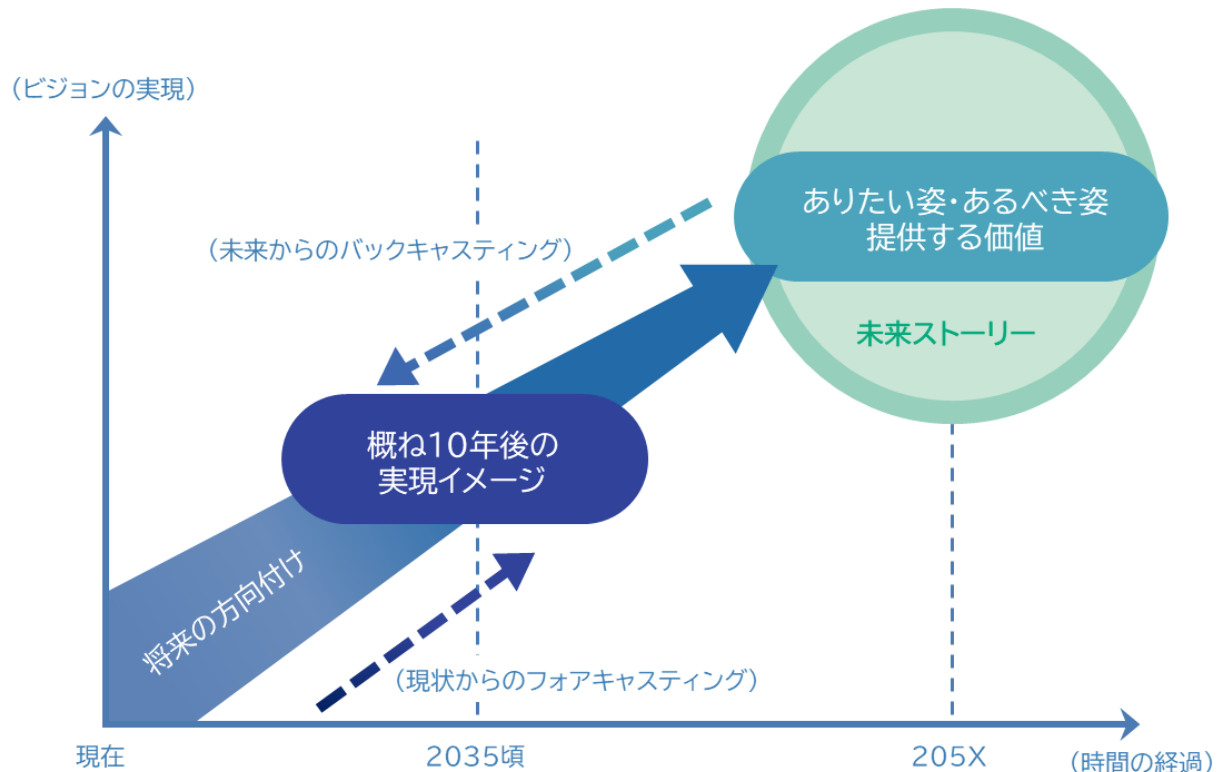
年度経営計画

社会を構成する一員としてのサステナビリティへの基本姿勢
(サステナビリティ基本方針・CSR活動指針)



実現の時期と道筋の設定

- 近年の急激な社会情勢の変化などにより、将来の予測が困難となるなど、不確実性が一層高まっています。だからこそ、新たなグループビジョンの策定に当たっては、グループの内外に向けて**遠い未来の方向性を明確に示すことが大切**と考え、未来社会をある程度具体的にイメージできる範囲で、**2050年頃をビジョンの実現時期として設定**しました
- そして、205X年までに予想される社会変化のトレンドや、阪神高速グループの事業環境の変化を踏まえて、未来の阪神高速グループを取り巻く社会を「**未来ストーリー**」として想定しました
- また、「未来ストーリー」の中での阪神高速グループの存在意義として「**ありたい姿・あるべき姿**」を、社会・お客さまにとっての価値として「**提供する価値**」を設定しました
- 併せて、未来からのバックキャストと現状からのフォアキャストを組み合わせ、205X年までの中間における具体的な到達点として「**概ね10年後の実現イメージ**」を設定しました
- このように実現の時期と道筋を設定することで、205X年に向けた方向付けとして「**意志ある未来**」を示しながら、その実現に向け着実に取り組むこととしています





グループビジョン策定の前提条件



社会変化のトレンド

初めに、205X年までに予想される社会変化のトレンドを、国や研究機関などが公表している報告・提言などから確認し、社会インフラである阪神高速道路の建設・管理を担う阪神高速グループの事業の特性を踏まえて、「人」「街・暮らし」「社会基盤」の3つの視点で整理しました

「人」の視点

- 高齢化や単身世帯の増加による孤立リスクの高まりと、メタバース空間などでの新たなコミュニティの形成が同時に進行
- ジェンダー・国籍、価値観の違いを尊重するなど多様性と包括性を重視する社会に変化し、共生や対話の重要性が増大
- 自動化技術の発展から生まれる時間の余裕を活かし、個人の趣味・学び・社会参加の多様化など「自分らしさ」を追求
- 人生100年時代を迎えてライフイベントのサイクルが再構築され、複数キャリアや生涯学習、高齢者の活躍が現実化

「街・暮らし」の視点

- 人口減少に対応し、都市機能を集約したコンパクトシティなど効率的な街づくりが進行
- オンラインを活用した働き方や学び方が普及し、地方移住や地域活性化が進展
- IoT、AI、ロボットなどによる自動化が進み、暮らしの快適性・安全性が向上
- 高齢者・障がい者・外国人など多様な人材が共に暮らせる生活環境が充実
- 自動運転の進化・普及により、移動の自由度が高まり、高齢者や地方在住者を中心に生活の質が向上

「社会基盤」の視点

- 再生可能エネルギーの導入が進み、地域分散型エネルギー社会が実現
- 電力の安定供給と効率的利用を支えるスマートグリッド、蓄電技術などの整備が進行
- 災害対策、資源管理、食糧安全保障など、気候変動への対応が重要性が増大
- 資源の再利用、脱プラスチック、ゼロエミッションなど、持続可能な社会モデルなど循環型社会に移行



事業環境変化の想定

次に、阪神高速グループの事業環境のうち外部環境を中心とする205X年に向けた変化を、「社会課題やリスク」、「社会的要請」、「技術の進展」の3つの視点で想定しました

視点	事業環境変化の想定
<p>1 確実あるいは高い確率で顕在化する社会課題・リスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口減少・少子高齢化 ○ 多様な人材の価値観などの相違 ○ 気候変動による風水害の深刻化 ○ 南海トラフ地震など大規模地震の発生 ○ 構造物・設備の高齢化、老朽化 ○ 社会資本整備・管理の担い手不足
<p>2 持続可能な社会の実現に向けた要請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脱炭素化・CO2削減 ○ エネルギー革命 ○ 資源・食糧の循環技術の進展
<p>3 技術の進展とそれによる社会の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報通信技術やデータ解析技術の進化 ○ 仮想空間やビッグデータを活用した予測技術の向上 ○ AI・ロボット・IoT技術などを活用した自動化・自律化の進展 ○ 時間や場所に制約されない多様な働き方・居住スタイル ○ 商品やサービスなどのパーソナライズ化



6つの未来ストーリー

次に、「社会変化のトレンド」と「事業環境変化の想定」を組み合わせ、阪神高速グループを取り巻く205X年の社会を「6つの未来ストーリー」として想定しました

① 最先端技術により予測が高精度化している未来

- デジタルツイン技術など仮想空間でのビッグデータの精緻な解析といった最先端技術が発達し、様々な高精度の予測が可能となる
- これにより、構造物などの老朽化に対応したレジリエントな管理に加え、エネルギーや資源の適切な配分と管理、スマートシティの実現、街の変化を織り込んだ生活情報の提供なども可能となる

② 災害等の危機を乗り越えられる未来

- 仮想空間を活用した災害発生とその影響の高精度な予測に基づいた防災対策が実施され、災害時にはAIを組み合わせたロボットなどが平時と変わらず活躍する
- 都市全体のモジュール化により分散化・省人化が促進されている
- その結果、災害時などにおいても早期に復旧できる環境が整う

③ 再生可能資源の活用が進んでいる未来

- 環境課題への対応が進む中で、社会全体が資源を有効活用する「循環型社会」へとシフトしている
- 持続可能な街づくりや都市の分散などを促進するための新技術の開発とエネルギーの供給源が重要となり、高速道路からも周辺地域へのグリーンエネルギー供給システムが構築される

④ 自動運転が一般化される未来

- いつでも誰でもヒューマンエラーの無い安全な車での移動が可能となり、移動に関するアクセシビリティが向上する
- 自ら運転する必要がなくなることで自由な時間が生まれるだけでなく、移動の概念や価値も変わることで、生活における安全性と自由度が高まる

⑤ 通信技術が革新し自律化技術が普及している未来

- 大容量で高速の通信を利用してより多くの情報を扱い、安定した遠隔操作などが可能になるほか、基本的な作業はAIやロボットなどにより自律化され、誰でも均質な結果・成果が得られる
- これによりヒトは自由な時間が増える一方で、複雑な意思決定や物事の取捨選択といった、より高度な判断が求められる

⑥ 都市と生活スタイルの多様化が進んでいる未来

- 自動運転の普及により、車を中心とした多様な生活スタイルが定着し、魅力的・特徴的な都市やコミュニティが増えていく
- 移動方法の変化と生活スタイルの多様化に伴い、様々なサービスのパーソナライズ化が進むとともに、分散した範囲のコンパクトなエリアで生活ニーズを満たすことが可能になる



阪神高速グループの意志ある未来

「6つの未来ストーリー」で示される未来社会において、阪神高速グループは自らがどのような存在でありたいのか。また、社会やお客さまは阪神高速グループにどのような期待をされているのか

この問いに対する答えが「阪神高速グループビジョン205X」です。この新たなグループビジョンにおいては、「ありたい姿・あるべき姿」や「提供する価値」として、未来社会において阪神高速グループがどのような存在でありたいのか、又はあるべきなのか、あるいは社会やお客さまにどのような価値を提供していきたいのかという、阪神高速グループの「意志ある未来」を示しています

また、価値の提供に向けては、時々の状況に応じて広い視点で取り組むこととしながら、価値の具体的内容をイメージしやすくするため、現時点で考え得る取組みの一部を「挑戦の例」として示しています

これに加えて、未来からのバックキャストと、足元の事業の状況や課題などを踏まえたフォアキャストを組み合わせ、「意志ある未来」を実現する205X年までの中間における具体的な到達点を「概ね10年後の実現イメージ」として示しています

阪神高速グループは、グループビジョンに示す「意志ある未来」の実現を通じて、お客さま、モノ・サービス、時間・空間をつないでいく未来を創造し、グループ理念「先進の道路サービスへ」の具現化を図ります

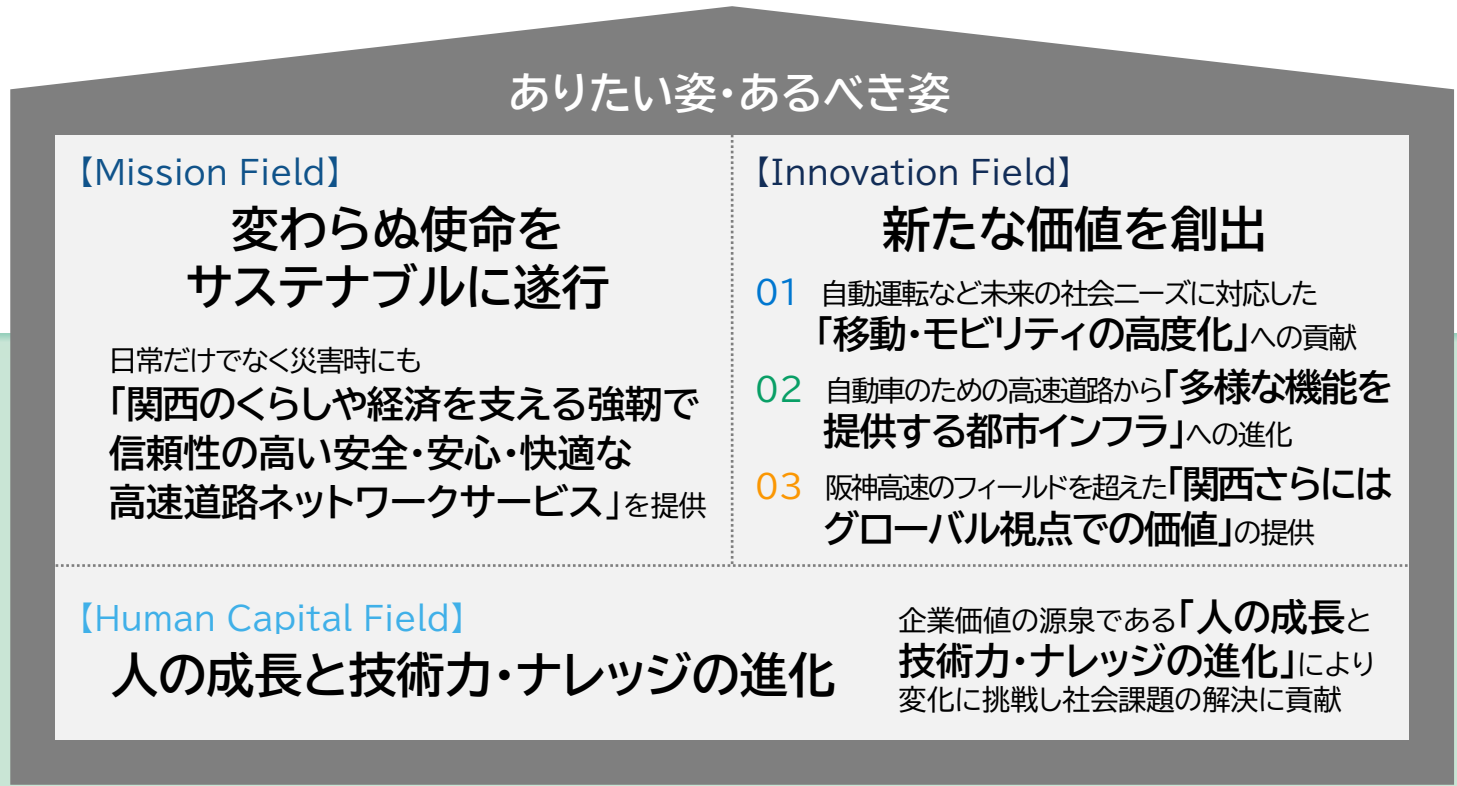


グループビジョンの概要



グループビジョンのフレーム

先進の道路サービスへ



- ① 最先端技術により予測が高精度化している未来
- ② 災害等の危機を乗り越えられる未来
- ③ 再生可能資源の活用が進んでいる未来

- ④ 自動運転が一般化される未来
- ⑤ 通信技術が革新し自律化技術が普及している未来
- ⑥ 都市と生活スタイルの多様化が進んでいる未来

6つの未来ストーリー

事業環境変化の想定

<p>確実あるいは高い確率で顕在化する社会課題・リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人口減少、担い手不足、社会資本の老朽化 ■ 風水害の深刻化、大規模地震の発生 	<p>持続可能な社会の実現に向けた要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 脱炭素化・CO2削減 ■ エネルギー革命、食糧等の循環技術の進展 	<p>技術の進展とそれによる社会の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ IT技術の進化、仮想空間の活用、自動・自律化 ■ 社会・生活の多様化・パーソナライズ化
---	---	--



グループビジョンの実現イメージ

阪神高速グループは、社会を構成する一員として、「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、グループビジョンの実現によるグループ理念の具現化を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、持続的な企業価値の向上を目指します

保有技術を活用した課題解決

保有する技術・情報
を活用し、**インフラ施設**のマネジメントなど**地域や海外のニーズ**に応じた事業を展開しながら、**気候変動問題**にも対応

Innovation Field 03 2 3 4 6 7

阪神圏の移動を高度化・最適化

自動運転などの技術の進歩に応じた**高速道路の機能の進化**や、交通手段を連携させる**モビリティハブ**の構築により移動の高度化・最適化を実現

Innovation Field 01 1 1 2 3 4

高速道路を活用した街づくり

阪神高速に接続する**物流拠点**や**スマートシティ**など、新たな街のあり方を提案

Innovation Field 02 2 3 4

移動性の向上と価値の創出

パーソナライズした情報を提供し、**移動のアクセシビリティ**を高めるとともに、**充実した移動時間**を過ごせるサービスを充実

Innovation Field 01 2 5 6、3 7 8

地域・社会との共創

地域とインタラクティブに交流して**相互理解**を深め、保有データも活用しながら、**地域の連携強化**と**新たな魅力創出**を支援

Innovation Field 03 1 1 2、2 5

強靭で信頼性の高いネットワーク

高いアクセス性とリダンダンシーを備え、災害時にも機能を維持できる**レジリエントな高速道路ネットワーク**を構築

Mission Field 1 1 2

安全・安心・快適の最大化

デジタル技術を活用した**情報の処理・提供**により、日常の安全で円滑な交通を実現し、災害時にも**的確な情報発信とオペレーション**を行い安全・安心を確保

Mission Field 2 3 4 5 6、3 9

人の成長と技術力・ナレッジの進化

多様な人材と保有する**技術力・ナレッジ**を融合し、道路サービスを進化させ、社会課題の解決に貢献

Human Capital Field

効率的で高度な維持管理

作業の**自動化・省力化**や安全性向上を実現する技術と、道路の**ライフサイクル全般**にわたる**シームレスなマネジメント**により、効率的で高度に高速道路を維持管理

Mission Field 3 7 8 10

高速道路の多目的な利活用

再生可能エネルギーを含む**電気通信**などくらしを便利にする**インフラ基盤**として、阪神高速の**施設・空間**を多目的に利活用

Innovation Field 02 1 1 2



グループビジョンの内容



グループビジョンの内容【Mission Field】

ありたい姿・あるべき姿
【M】

変わらぬ使命をサステナブルに遂行

日常だけでなく災害時にも「**関西のくらしや経済を支える強靱で信頼性の高い安全・安心・快適な高速道路ネットワークサービス**」を提供します

安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまに最高の満足を体感していただくことは、阪神高速グループの今後も変わらぬ使命であり、更なる満足を追求することが、社会やお客さまの期待に応える新たな価値の創出にもつながります

阪神高速グループは、培ってきた技術力・ナレッジと最先端の技術力・ナレッジを融合して、道路サービスの価値を最大化し続ける存在を目指します

提供する価値

① 関西のくらしや経済の発展を支える安全・安心・快適な高速道路ネットワークを構築

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ① 空港や港湾などの交通結節点や物流拠点への**アクセス性**を高め、サービスレベル(速達性・定時性)を向上させるとともに事故・災害時における**リダンダンシー**を確保します
- ② 最先端の技術を活用して、地震などの災害時にも機能を維持できる**レジリエント**な道路・設備を構築します

概ね10年後の実現イメージ

- 共同事業者と連携し、淀川左岸線2期、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線の整備を着実に推進しています
- アクセス性向上や防災機能強化のためのネットワーク拡充に向けた検討を進めています



グループビジョンの内容【Mission Field】

提供する価値

② 阪神高速道路の利用に関する安全・安心・快適を最大化

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ③ 事故・渋滞ゼロを目指し、AIや先進の**大規模情報処理技術**を活用した最適な交通マネジメントにより交通を円滑化・最適化します
- ④ 正確で分かりやすい情報を**多様なお客さま**へ提供します
- ⑤ 走行中のお客さまへの情報提供手法を確立し、**行動変容**を促進することで、ネットワークの有効活用を実現します
- ⑥ 災害時に先進技術を用いて迅速かつ的確に**情報発信**、**避難誘導**、**交通制御**を行い、お客さまの安全・安心を確保します

概ね10年後の実現イメージ

- 事故リスクの低減のため、交通事故実績データの詳細分析に基づく事故対策を行うとともに、センシング技術を活用して交通情報を収集・処理・提供しています
- 渋滞緩和のため、AIなども活用してきめ細やかな情報提供を行うとともに、部分的なハード対策や料金施策について検討を進めています
- すべての料金所のETC専用化・無人化を実現し、料金設定の多様化にも対応した料金収受を安定的・効率的に実施しています
- 災害発生時には多様な技術を活用して迅速に被災状況などを把握し、情報発信、避難誘導、交通制御を的確に行っています

③ 日常だけでなく災害時にも道路ネットワークの機能を安定的に確保

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ⑦ 高速道路の安全・安心な機能を維持し続けるため、**地域の理解**を得ながら、効果的に修繕を実施します
- ⑧ **先進的で信頼性の高い設備・システムと多様なデータ**を活用したオペレーションや、最先端の技術を活用した作業の**自動化・省人化**と安全性向上により、効果的かつ効率的に高速道路を管理します
- ⑨ **デジタル技術を活用した発災時の備え**など、先進的手法による高速道路の防災・減災の取組みを通じて、災害復旧に貢献します
- ⑩ デジタル技術を活用し、道路のライフサイクル全般にわたる**シームレスで高度なインフラマネジメント**を実現します

概ね10年後の実現イメージ

- 大規模更新・修繕事業を着実に実施し、構造物の老朽化対策を進めるとともに、長大橋など特殊橋梁の中長期維持管理を実施しています
- 将来のメンテナンスコスト増と担い手不足に備え、予防・予知保全や遠隔監視・点検などを活用した維持管理の効率化、高度化を進めています
- 大規模地震発生時に緊急輸送路として活用できるよう耐震機能の強化を進めるとともに、発災後オペレーション計画を確立しています

グループビジョンの内容【Innovation Field 01】



ありたい姿・あるべき姿
【I-01】

新たな価値を創出

自動運転など未来の社会ニーズに対応した「**移動・モビリティの高度化**」に貢献します
～阪神高速及びそれを核とした人流・物流の高度化～

未来社会においては、自動運転が一般化し、新たなモビリティも登場する中、移動手段同士の連携も進むことで、安全でスムーズな移動と移動中時間の自由な活用が可能になり、移動の価値や概念が大きく変化します。物流・輸送分野では人手不足の解消にも寄与します

阪神高速グループは、未来社会の豊かな移動環境を実現するために、先陣をきって移動に関する多様なニーズに寄り添うサービスを提供し、移動の価値を高め続ける存在を目指します

① 自動運転車両をはじめとする様々なモビリティ、交通・輸送機能と連携し阪神圏全体の移動を高度化・最適化

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ① 自動運転などモビリティの発展や技術の進歩に応じ、お客さまのニーズを先取りして、**高速道路の機能を継続的に進化・革新**させます
- ② 他の交通手段などとの**結節点**となり、**阪神圏のモビリティハブ**として多彩な機能を発揮します
- ③ **路車協調型自動運転**などにより、安全で効率的な交通を確保するとともに、人手不足にも対応できる物流システムに貢献します
- ④ 他の事業者とのコラボレーションなどにより、移動のあり方や人々のニーズの変化に対応しながら、**高速道路の強みを最大限発揮する新たなサービス**を提供します

概ね10年後の実現イメージ

- レベル4の自動運転車両が走行可能な環境整備に着手し、手動運転車両が混在する状況においても合流部での速度低下や事故などが起きないスムーズで安全な走行環境を提供しています
- 阪神高速と機能連携した物流拠点の整備に関わるなど、物流を効率化し人手不足などの課題解決に貢献しています

提供する価値

グループビジョンの内容 【Innovation Field 01】



提供する価値

② 一人ひとりのお客さまの立場で移動のしやすさを向上

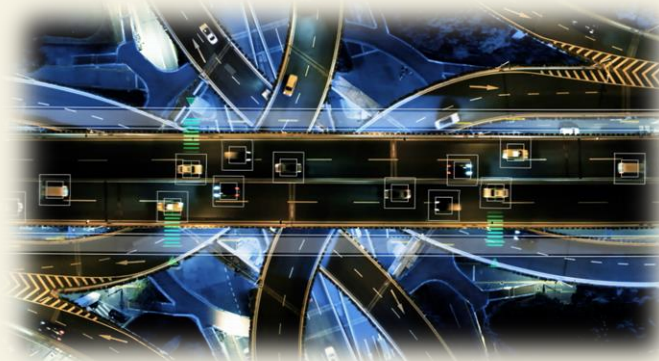
【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ⑤ 移動のために必要な **パーソナライズされた情報**をお客さま一人ひとりに提供します
- ⑥ 移動時間の軽減や**移動に関するアクセシビリティ**向上のために他の事業者と積極的に連携・協働します

③ モビリティの進化や多様化に対応した新たな移動文化を創出

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ⑦ 保有データの活用や他の事業者との連携・協働により、自動運転車両の車内で楽しむ地域情報や芸術・娯楽コンテンツなど、**移動時間を有効活用**できる新たなサービスを提供します
- ⑧ 高速大容量の通信環境の提供など、**新たな移動文化**を楽しむために必要な環境を整備します



車と道路が相互に通信することで事故を防止し交通を円滑化



お客さまが必要とされるパーソナライズされた情報を提供

概ね10年後の実現イメージ

- 地域や他の交通事業者と連携し、阪神高速と他の交通手段を結びつけて移動の利便性・効率性を向上させるとともに、移動に関するパーソナライズされた信頼性の高い情報・サービスを提供しています
- 阪神高速と沿道施設などをシームレスに利用できる仕組みを提供しています
- 休憩機能、エンターテインメント機能、給電機能など、お客さまの体験価値と利便性を高める多様なサービスを提供しています



グループビジョンの内容 【Innovation Field 02】

ありたい姿・あるべき姿

【I-02】

新たな価値を創出

自動車のための高速道路から「**多様な機能を提供する都市インフラ**」へと進化します
～阪神高速の施設・空間を利活用した人流・物流以外の価値・サービスの提供～

予測技術が進化する未来社会では、資源やエネルギーの管理が最適化されるスマートシティの実現が見込まれ、関西都市圏の骨格を形成する阪神高速道路のネットワークは、社会の期待に応えて構造物や周辺空間を多目的に利用するなど、新たな役割が期待されます

阪神高速グループは、高速道路ネットワークを都市インフラとして多目的に活用することに貢献し、道路によるリアルなつながりを活かした、より良い生活の実現を多角的に支援する存在を目指します

提供する価値

① 高速道路の構造物と周辺空間を活用して地域の生活の利便性や安全性を向上

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ① 道路空間を電気・通信・情報処理など都市のくらしをより便利にする**インフラ基盤**として新たに利活用します
- ② 道路空間を多目的に利活用するための**自治体・周辺地域・他の事業者との連携**を強化します

概ね10年後の実現イメージ

- 地域コミュニティ活性化などの課題に応えるとともに、地域と連携し、災害発生時には非常用電源設備を備えた避難場所や支援拠点として、高架下空間などを有効活用しています

グループビジョンの内容【Innovation Field 02】



② 高速道路を活用して人口減少社会への対応や循環型社会の形成に関する諸課題に対応・改善

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ③ 高速道路との接点における物流拠点の構築やスマートシティの開発への参画など、新たな街のあり方や生活スタイルを提案します
- ④ 構造物・施設の緑化や周辺地域に馴染むデザインの採用など、街の風景づくりに貢献します



電気自動車をより利用しやすくする拠点を整備



電気などを運ぶインフラ基盤として道路空間を利活用

提供する価値

概ね10年後の実現イメージ

- 阪神高速の構造物やネットワークなどを活用して再生可能エネルギー由来の電力を発電し、沿線の施設などに供給するよう検討を進めています
- 地域の取組みに協力したライトアップの実施などにより、良好な景観を形成しています



グループビジョンの内容【Innovation Field 03】

ありたい姿・あるべき姿
【I-03】

新たな価値を創出

阪神高速のフィールドを超えた「**関西さらにはグローバル視点での価値**」を提供します

技術の進歩や人口減少などを背景に都市と生活スタイルの多様化が進む未来社会においては、気候変動問題を含む地域・社会の個別又は共通の課題に連携して対応することが求められます

阪神高速グループは、移動・モビリティや道路に関する情報・知見を活用して、地域・社会などをつないで関西の街づくりや地域の活性化を支援し、更には関西の枠を超えて課題解決に取り組み、新たな魅力を創出する存在を目指します

提供する価値

① 阪神高速道路ネットワークの存在を通じて異なる地域のニーズとソリューションなどを結び付け効果的に課題を解決

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ① 積極的な情報発信や共同イベントなどを通じて、**地域との相互理解**を高めながら、課題の把握とその解決に関わる他の**地域や産業などの結びつき**を支援します
- ② 地域・自治体と協働し、**ビッグデータ**や先進技術などを利用して**街づくり**などを支援します

概ね10年後の実現イメージ

- 広域周遊ルートを開発するなど、阪神高速が地域間をつなぐ広域連携のハブの役割を果たしています
- 地域の強みを活かした観光資源を地域と共創し、持続可能な地域づくりに貢献しています
- 移動に関するデータや分析ノウハウの提供、データに基づいた街づくりのための提案などを行い、地域活性化を支援しています

グループビジョンの内容 【Innovation Field 03】



② 保有する技術や情報を利用して地域や社会の課題を解決し新たな魅力を創出

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ③ 培ってきた人材や技術などを**地域のインフラ施設のマネジメント**などに活用します
- ④ **地域社会の防災・減災**に関する活動や計画立案を支援します
- ⑤ 地域と共に、観光の促進など**地域の新たな楽しみ方**を発見します
- ⑥ 移動の価値の進化に伴う新たな生活のあり方など、**多様化するニーズやライフスタイル**の実現を支援する最適な選択肢を提供します
- ⑦ **カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーなどの実現**に向けた取組み、**地域・社会との共創**など、気候変動問題への対応を推進・促進します



ビックデータや仮想技術を活用してより効率的な社会システムを実現



CO2を吸収する高速道路

提供する価値

概ね10年後の実現イメージ

- インフラの老朽化や技術者不足などの課題解決のため、阪神高速のノウハウを活かした技術コンサルティング事業を幅広く展開しています
- 用地補償コンサルティング事業を近畿圏とその周辺から着実に展開しています
- 高速道路マネジメントに関する技術力・ナレッジを活用して、国際貢献を継続しています
- 阪神高速と地域がそれぞれの防災に関する技術・知見を相互に活用し、地域全体の防災対応力が向上しています
- 少子高齢化などの社会課題の解決に貢献する物件を積極的に取り扱うなど、不動産事業の展開エリアや規模を拡大しています
- 駐車場と他のサービスを一体的に利用できるプランを提供するなど、利便性が高く独自性のある駐車場事業を展開しています
- モビリティ認証パッケージ(※)を幅広い分野に展開し、地域経済の活性化や社会課題の解決の手段として活用しています
- 2050カーボンニュートラル実現をはじめとした気候変動問題(緩和策・適応策)への対応を着実に進めています

※ ETCを利用して車両と運転者、施設などの利用者を認証し多用途に活用する技術

グループビジョンの内容【Human Capital Field】



ありたい姿・あるべき姿
【HC】

人の成長と技術力・ナレッジの進化

企業価値の源泉である**人の成長**と**技術力・ナレッジの進化**により変化に挑戦し社会課題の解決に貢献します

変わらぬ使命の遂行と新たな価値の創出を支えるのは、「人」と「技術力・ナレッジ」です。多様な人材を組織として結集しながら伝承・進化させた技術力・ナレッジと組み合わせることで、社会課題の解決に貢献し、それにより社会からの信頼と多様なパートナーとの相互理解を高めて共創を実現していきます

阪神高速グループは、プロフェッショナルな人材が高い次元で融合する集団を形成して、持続的に変化に挑戦し、社会の期待に応え信頼を得る存在を目指します

提供する価値

道路サービスの価値の拡充・進化や新たな価値の探求・創出により社会に貢献

【価値の提供に向けた挑戦の例】

- ① 道路サービスの最適化と付加価値向上を推進する人材、新たな事業の開発を推進する人材、経営・事業をリードする**人材を戦略的に確保し成長を持続的に推進**します
- ② 阪神高速グループの使命を**共通の価値観**として認識し、社員一人ひとりが**主体性を発揮**しながら**多様な個性を活かし合う**組織風土を醸成します
- ③ これまでの事業活動を通じて保有している**技術力・ナレッジを組織として伝承・共有・活用**するとともに、新たな技術力・ナレッジを**創造・蓄積**していきます
- ④ 人・組織と技術力・ナレッジを融合し社会課題の解決に持続的に貢献することでステークホルダーの期待に応え、**社会の信頼を獲得**します
- ⑤ 多様なパートナーとの**相互理解**を基盤として、幅広く技術力・ナレッジを結集し、**共創**を実現します

グループビジョンの内容 【Human Capital Field】



技術力・ナレッジを進化させて、持続的に変化に挑戦し、社会の期待に応えながら、阪神高速グループの事業を推進する社員の活躍

提供する価値

概ね10年後の実現イメージ

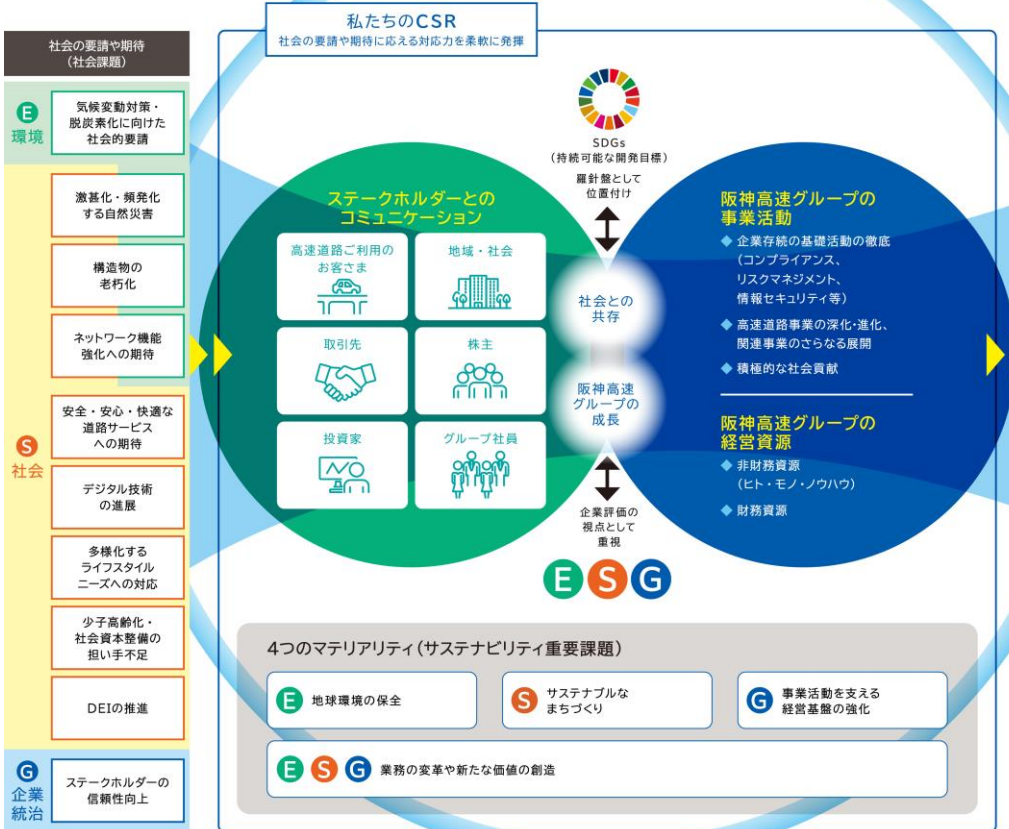
- プロフェッショナルな人材への成長モデルを明瞭化し、社員が高い目標にチャレンジすることで、自主的成長への意欲が高まり、グループ事業を力強く推進する原動力になっています
- 社員が阪神高速グループに誇りを持ち、能力と熱意を最大限発揮することで、組織としての一体感を高め多様な価値を創出しています
- 阪神高速グループ各社の強みを効果的に発揮するよう組織体制や事業領域を強化・最適化し、グループの企業価値を最大化しています
- 阪神高速グループが培ってきた技術力・ナレッジの伝承と活用、新規形成と運用性の向上により、道路構造物の長寿命化や脱炭素化などの社会課題への対応と省力化・省人化を推進し、事業の安全で円滑な実施を支えています
- 最新かつ安全なIT環境の下で、DXを活用した業務の見直しや情報資産の利活用などを進め、多様なパートナーと共に生産性向上と全体最適化を実現して、持続的に企業価値を高めています
- 効果的なブランディングによる阪神高速グループのプレゼンスの向上、多様なパートナーとの交流を通じた相互理解と信頼性の向上に努め、地域や社会との共創を実現する基盤を構築しています



(参考) 阪神高速グループのサステナビリティ

阪神高速グループは、社会情勢の変化や社会の潮流を敏感に捉え、社会を構成する一員として「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、グループビジョンの実現によりグループ理念「先進の道路サービスへ」を具現化していくことを通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、持続的な企業価値の向上を目指します

【価値創造プロセス】



サステナビリティ基本方針

環境・社会課題がグローバルに拡大し、社会全体で課題を解決することが求められている現代社会において、阪神高速グループも社会を構成する一員として、「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、「私たちのCSR＝企業の基本的な責任にとどまらず、社会の要請や期待に対してグループ一体となって柔軟に応じていくこと」を実践することで、一人ひとりが輝き、多様な豊かさにつながる持続可能な社会の実現に貢献し、自らも持続的に進化・成長することを目指します。

CSR活動指針

阪神高速グループは、自社を取り巻く社会の要請や期待、変化を感性鋭く捉え、グループ一体となって柔軟に応じていくために、すべてのステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを図りながら、以下の3つの活動を推進します。活動にあたっては、SDGs(持続可能な開発目標)を羅針盤として関連付けるとともに、ESG(環境・社会・企業統治)を重視して取り組みます。

3つの活動内容

- 企業存続の基礎活動(コンプライアンス、リスクマネジメント、情報セキュリティ等)を徹底します
- 高速度道路事業の深化・進化、関連事業のさらなる展開を図ります
- 経営資源(ヒト、モノ、ノウハウ等)を生かし、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとした社会貢献活動を実施します



先進の道路サービスへ